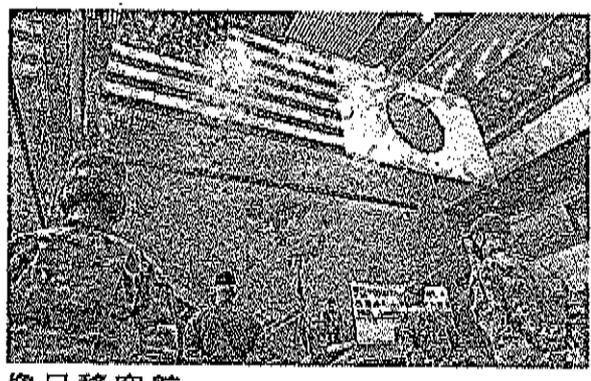


米軍が自衛隊を訓練

日米一体の航空作戦の展開に向けて、米空軍が航空自衛隊を指揮・統制するための教育・訓練を横田基地（東京都多摩地域）で実施していたことが、米空軍のニュースで分かりました。米軍は日米共同の作戦センターの兵器システム更新も提案しており、対中国航空作戦を想定した日米一体の指揮中枢として同基地を強化する動きが進んでいます。

横田基地



航空自衛隊への教育・訓練を実施したのは、フロリダ州の第505訓練飛行隊です。

同飛行隊は、戦争における作戦レベル（戦術戦闘部隊の指揮・統制）で、地域の航空作戦センター（AOC）などが使用する航空・宇宙・サイバールを利用した指揮・統制手順

航空作戦の日米一体化の中核となる空自航空総隊司令部庁舎で開かれた移転10周年式典（2022年4月20日、東京・横田基地）米国防総省映像情報配信サービスVIDIDS

航空作戦で指揮・統制一体化

とシステムについて、各軍種をまたいだ統合部隊や多国籍部隊の戦闘員を訓練することが任務です。

日本の要求満たす

5日付ニュースでは同部隊の3年にわたる取り組みで、空自の航空作戦センターの計画・実行についての理解と、作戦レベルでの航空兵力の利用を可能にする教育基準の構築を援助し、「日本政府の要求を満たした」と強調。同部隊は、航空自衛隊員15人を訓練し、AOC兵器システムの最新型のブロック20への更新を提案したとしています。

2006年5月に開かれた外交・軍事担当閣僚による安全保障協議委員会「2プラス2」合意では、横田基地への

空自航空総隊司令部の移転（12年3月）、日米統合共同作戦調整センター（BJOCC）と防空・ミサイル防衛調整を並置すると明記。横田基地の米第5空軍と空自は07年、空自航空総隊司令部庁舎に米空軍のAOC兵器システム「ファルコナー」と同様のシステム・日米共同航空作戦調整センター（BAOCC）

他国軍に攻撃指示

AOC兵器システムは、米軍指揮下で衛星や航空機、サイバー・通信などで収集したさまざまな情報を集中し、米軍の指揮下で各軍種や他国軍の航空部隊に攻撃を指示するものです。

戦争になれば真っ先に攻撃対象に

東京平和委員会・岸本正人事務局長の話 航空自衛隊総隊司令部が米軍の訓練部隊に戦術の指揮・統制などあらゆる分野で指導されていたことは、日本自衛隊の司令部が米軍の指揮下に入り、戦争することを意味しています。同時に、岸田政権が強硬に進めてきた「敵基地攻撃能力」の保有は、日本を守るものでないことを裏付けています。



有事になれば軍事司令部がある横田基地は、真っ先に攻撃対象になり周辺住民が巻き込まれ、被害は甚大です。いまこそ敵をつくるのではなく、平和外交で友好関係をつくることを訴えます。